

PJ計画立案時のツール適用計画支援手法の提案 —ツール適用計画のためのパターン集として—

NEC ソフトウェアエンジニアリング本部

飯星 貴裕

t-iihoshi@cj.jp.nec.com

開発における問題点

SW開発PJのQCD改善に向けて、様々なツールが開発されてきた。しかし、これらのツールによってQCD改善効果を得るには、PJ課題に適したツールの取捨選択、ポイントを押さえたツールの適用計画・準備が必要である。さもなければ、ツールを適用しても改善効果を得られないばかりか、逆にQCDが悪化することすらありうる。

手法・ツールの適用による解決

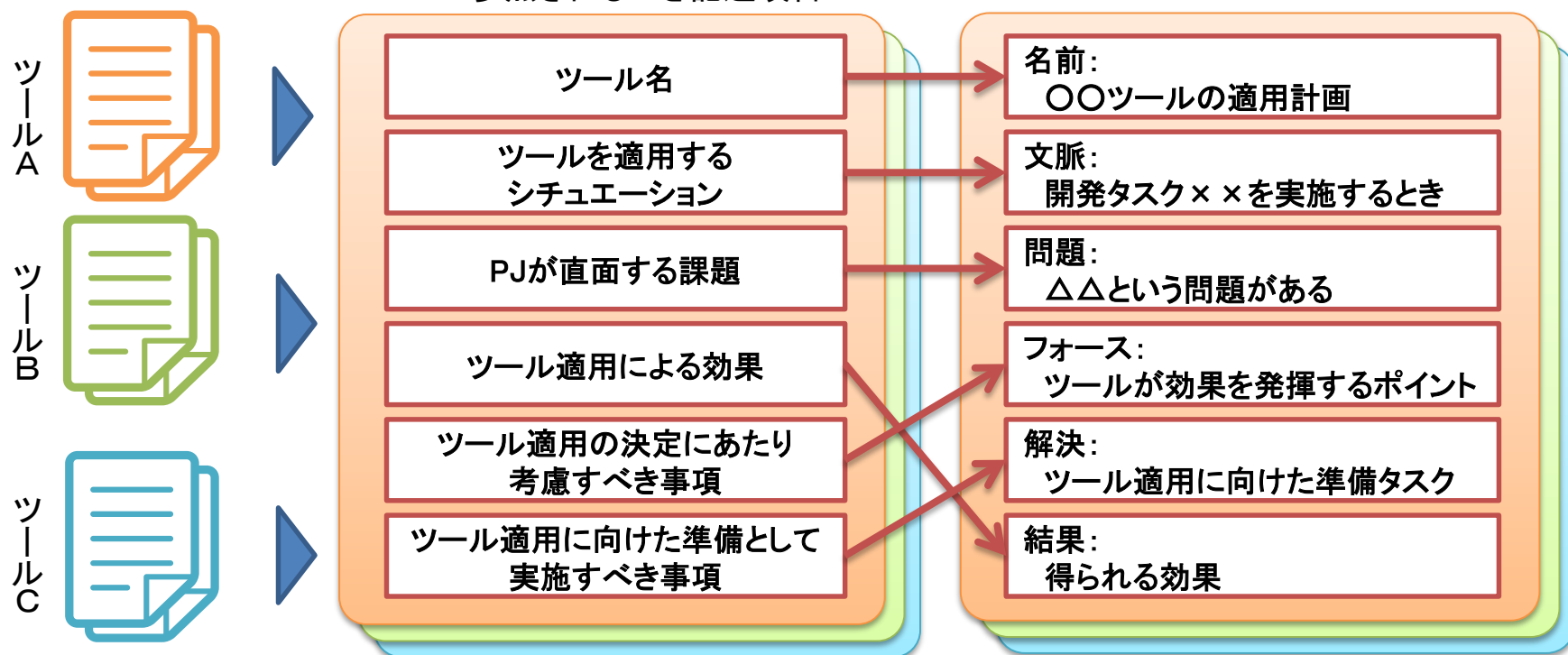
「適用是非の判断基準」と「具体的な適用手順」の記述が可能であるというパターンの特徴を利用した手引き書を作成し、ツール適用計画を支援する手法を提案する。手引き書に記述すべき項目を分析し、それをパターンの形式で記述することが、様々なツールで可能か評価する。

ツール適用計画のためのパターンの記述項目

既存のツール説明資料

ツール適用を計画するにあたり
参照されるべき記述項目

ツール適用計画のためのパターン集
(GOFのパターンの形式)



記述項目の導出

失敗事例から、計画時に参照されるべき項目を分析

ツール名	参照済
ツールを適用するシチュエーション	参照済
PJが直面する課題	参照済
ツール適用による効果	参照済
適用の決定にあたり考慮すべき事項	未参照
適用に向けた準備として実施すべき事項	未参照

手法のポイント

- ・ツールの適用是非は最終的に人が判断する必要があるが、ルールでは判断を促すような記述をしにくい
- ・対して、パターンの記述形式には判断を促す性質がある
- ・特性の異なる様々なツールについて、本研究の記述項目をパターンの形式で記述可能

今後の課題

- ・パターン以外の手法との比較評価
- ・実PJにおける適用評価
- ・パターンの充実化・改善